



古志原小学校だより

令和6年度No.14

11月19日

(文責 校長 小林 敏朗)

えがおいっぱい

11月も後半に入り、2学期も残りおよそ1か月になりました。11月に入ってから、島根県内でも松江市内でもインフルエンザの情報が入ってくるようになりました。昨年度は、本校でも10月下旬ごろから流行したことを思い出しました。学校では換気や手洗い等の感染症対策に努めていきます。ご家庭でも、おこさんの朝の健康観察、日々の健康管理をお願いします。

みんな素敵でした！古志原っ子発表会！！

11月8日（金）に古志原っ子発表会を行いました。当日はお忙しい中お出かけいただき、そしてこどもたちに温かい拍手を送っていただき、ありがとうございました。こどもたちも、保護者、ご家族の皆様から温かい拍手をいただいて、きょううれしかったことと思います。

1年生



2年生



3年生



4年生





5年生



6年生

発表会当日、こどもたちがお互いに発表を見合う午前の部も保護者の皆様に観ていただく午後の部も、こどもたちはとてもがんばって発表していましたし、練習の成果が十分に発揮できていました。やっぱり、こどもたちが一生懸命に取り組む顔、表情、姿は素敵です！また、素敵だな、いいなと思ったことは発表だけではありません。聞く、観る、つまり観賞する態度もよかったです。こどもたちは、発表の様子をじっと見たり、しっかりと耳を傾け聞いたりしていました。昨年度よりこどもたちの観賞する態度、姿勢は確実によくなってきているなと感じました。発表中の私語はほとんどなかったですし、熱心に観賞している姿が印象的でした。そして、発表が終わると大きな温かい拍手を送り、全校みんなで創る発表会になりました。



観賞の様子

私自身、この発表会には2つの意義があると考えています。それは、この発表会が「憧れをもつ場」「成長を感じる場」ということです。一つ目の「憧れをもつ場」というのは、自分より年上の学年の発表を見ながら「すごいな」とか「自分も〇年生になったら、こんなことをしてみたいな」と憧れをもつ、未来の自分をイメージするということです。こどもたちにとって、この憧れをもつということは、自分自身を成長させるためのとても大きなエネルギーになると思っています。二つ目の「成長を感じる場」についてです。発表会当日のように、多くの方に見ていただくと、こどもたち自身のモチベーションはぐ～んと上がります。発表に向けて、それまでの自分より一段上へ高めていこうとがんばります。やり終えたときに感じる達成感や見てくださった方からの褒めの言葉で自分への自信が生まれます。これは本校が取り組む「自己肯定感」にもつながります。このような意義から、こどもたちにとって、とても大切な行事だと考えています。

～発表会を終えた次の週～

＜その1＞各学年のホワイトボードにはこどもたちへのメッセージ、これまでのがんばりを認める賞賛の言葉などが書いてありました。こどもたちも読んで、きょううれしかったことと思います。

＜その2＞発表会を終えて「こどもたちの生活はどうか？」と思っていましたが、こどもたちは落ち着いた様子で学習に取り組んでいましたし、学校全体も静かな雰囲気になっていました。発表会の余韻に浸りながらも、切り替えがよくできているなと感じました。

